

# ブックトリップ

～本の世界を旅しよう!!～

まだ油断できない状況下、せっかくの連休も、外出をためらう方はいるのではないだろうか。そんなときこそ、ぜひ本をおススメしたい！本はその場で手軽に冒険や外出気分を味わうことができる、まさに在宅ワークならぬ在宅トリップを楽しめる優秀なツールでもある。今特集では、そんな「ブックトリップ」に最適な本を紹介する。



## 世界のさんぽ道



WANDERLUST / 編、  
光文社、2019年、所蔵：野方

「さんぽ道」と聞いたとき、最初に何を連想するだろうか。慣れ親しんだ家までの帰り道、小さい頃に使用していた抜け道、散策を習慣づけていれば専用の散歩コースがあるかもしれない。本書は、日常でいつも目になっている「道」に焦点を当て、フランスやノルウェーなど、春夏秋冬ごとに世界各地のノスタルジックな路地裏の様子を紹介している。

## 世界幻想とファンタジーの情景



パイインターナショナル /  
編著、パイインターナショナル、2019年、所蔵：中央

本書は、「実在するフィクションの情景」を、物語や逸話とともに

紹介する写真集だ。誰しも幼少期に、現実ではありえないような美しいフィクションの世界に没頭したことがあるのではないだろうか。まさに「ブックトリップ」の名にふさわしい一冊だ。

【あわせて読みたい！】

・『異世界に一番近い場所』（清水大輔 / 著、パイインターナショナル、2019年、所蔵：江古田）  
・『世界伝説と不思議の物語』（パイインターナショナル、2013年、所蔵：江古田）

## 人生の地図



高橋歩 / 編著、  
A-Works、2003年、  
所蔵：野方

著者は東京都出身。自営業を経て出版社を設立。結婚後、すべての肩書を捨てて妻とともに世界一周の大冒険へ。その後、世界各地を回り様々なプロジェクトに勤しみながら、執筆活動も続けている。そんな彼の肩書は「自由人」だ。やりたいことを躊躇わずやりたいだけやる。まさに

『人生の地図』はシリーズで推した作品だ。主な登場人物は、主人公・キノと相棒・エルメス（しゃべる二輪車）。「一つの国に三日滞在」というルールのもと、一人と一台の旅路を描いた短編ファンタジー。登場する国は異なる文化や文明、思想や価値観を持ち、すでに滅びている国もあれば建国して間もない国もある。多様な国々の中で繰り広げられるストーリーは、感動したりぞっとしたり切なくなったり、様々な衝撃を読み手に与えてくれる。内容もさることながら、黒星紅白が描くイラストも美しく鮮やかで、キノの世界観を彩っている。

自由の体現者。本書では、「人生という旅」に着眼した著者の言葉を写真と共に楽しむことができる。

## キノの旅 XXXIII



時雨沢恵一 / 著、  
KADOKAWA、  
2020年、所蔵：中央

\* \* \*

※ 本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。